



八王子国際フレンドからのメッセージ



韓国

留学生 朴 政泰(パク ジョンテ)

平成17年5月

皆さんこんにちは。皆さんがこの文をお読みになる頃は、桜はもう散り去ってるでしょう。僕が住んでいる横川町は桜がとても綺麗ですね。僕の部屋から浅川に沿って咲き誇る桜が見えるんですが、今は大分散ってしましまして少し空しい感じもします。

今日は皆さんに僕の日本体験の中で、日本の謝る行為についての僕の感想を少し話してみたいと思います。人は普通過ちを犯すもので、その反省として謝るのは当然のことですので、謝ることそれ自体に何らかの問題があるとは思いません。しかし、日本での謝り方は、僕にとって少し威圧感がありますね。もちろんこれは外国人である僕の感想であり、これから述べることはあくまでも自分の個人的な考え方であることを前もって話しておきたいと思います。

僕が日本の謝り方を真剣に考えはじめたのは、日本に来て3ヶ月ぐらい経ったころからだと思います。電車の中で座って本を読んでいた僕の前に一人の女性が両手に荷物を持って立っていることに気づき、「僕がお持ちします」と言いました。今考えると自分が大変なことをやってしまったなあと冷や汗が出るぐらいですが、韓国では電車の中で座っている人が荷物を持って立っている人を助けるのが普通ですので、その当時は自然にそんな行動ができたと思います。ところで、その女性の次の言葉が僕を長い間悩ませました。その女性がこう言ったのです。「あ...大丈夫です。すみません」と。僕が不思議に思ったのは、僕に何も謝ることをしていないのにその女性がなぜ「すみません」と言ったのかについてでした。結局自分なりに出した結論は、人との関係に異常に気をつける日本の習慣がそのような言い方を頻繁に使わせる背景にあるので

はないかということでした。つまり、人が自分に気を使うことに対する謝りですね。

そんな出来事があったから間もない頃でした。混んでいる駅である男性の足を踏んでしまったんですが、僕が謝る前にその人が「すみません」と言いながら遠ざかっていたのです。なぜ僕が足を踏んだのにその男性が謝るのか。また悩みましたね。その時の経験で「すみません」という言葉に拒否感をおぼえるようになりましたね。なぜかと言いますと、「すみません」という言葉から人間関係をナイフで切ってしまうような冷たさを感じたからです。こっちが謝るからこれ以上この件について話さないで欲しいという感覚で「すみません」という言葉を使っているようなことを感じたのです。

そんな意味でこの間、JRの電車事故で胸を痛めた遺族に向かって「申し訳ありません」という言葉を繰り返すJRの職員に怒りをおぼえる遺族を放送で見ましたが、何となくその遺族の心境が分かるような気がしました。

他の会社の例ですが、会社の不祥事を集団的に隠蔽しようとした後、その不祥事が明らかになると記者会見で社長が謝るんですね。そしてまた隠蔽工作を繰り返すんですね。日本では謝る者に対して寛容な態度をとる人情あふれる習慣があると思います。謝る者に対してそれ以上責めないという美しい習慣がある反面、行動が伴わずに一応謝ればいいじゃないかという無責任なところもあると思います。

また日本での謝り方には次のような側面もあると思います。僕は喧嘩が好きでもないし、暴力に賛成するわけでもないですが、殴られても自分の信念を守ろうという意志が強いほうだと思います。そんな性格のせいで、めったにないですが殴り合い寸前にまでいったことが何回かあります。こちらが喧嘩を避ける気配がないということを知ると、相手の手を握りながらすぐ悪かったと謝るんですね。相手が平和主義者であるかもと言ってしまえばそれまでですが、その人も守らなければならない自分の信念というのがあるだろうし、謝ったからといってその人の考え方が急に変わったとは思えないと思います。その時まで僕を殴ろうとした勢いは何だったのでしょうか。おそらく一応その場面を避けたいという気持ちがあったでしょう。またそんな人たちは、謝ったんだからもうその件は棚上げにするべきであると訴えているようでしたね。

最近日韓と日中間に歴史認識をめぐる一連の騒ぎがありました。僕は韓国や中国のほうだけが正しいとは思いません。しかし、謝ることに対する日本的な感覚ではいつまで経っても問題は解決できないと思います。だからといってもっと謝るべきだと言

ってるのではありません。殴られても言うべきことが日本にはあるでしょう。問題をその時その時に謝ることで済ませようとする考え方も確かに日本にはあるでしょう。

日本での生活が長くなればなるほど口癖のようにすみませんと言ってしまう自分が少し心配になるのは、心と行動が伴わない軽い謝り方をしているのではないかという杞憂からでしょう。

意図とは違い少し重い話になったかもしれませんが。次回はより明るい話で皆さんに会いたいと思います。では皆さんさようなら。